季刊（4月・7月・10月・1月　発行）

Gifu Occupational Therapist Association News

ごったに 82号

2016年　7月

事務局：平成医療短期大学　岐阜市黒野 182
TEL＆Fax：058-234-6763
E-mail:jimu@gifu-ot.com　http://gifu-ot.com

作業療法の未来、今、しなければならないこと

―作業療法士が更に必要とされるために―

一般社団法人　日本作業療法士協会会長
中　村　春　基

目次

・巻頭言「新会長就任のご挨拶」
・活動報告（第20回岐阜県作業療法学会）
・活動報告（県士会活動について）
・私のまちのお店紹介
・突撃となりの作業療法士
・第21回岐阜県作業療法学会 演題募集のお知らせ

新会長就任のご挨拶

大垣市民病院
須　貝　里　幸

平素より岐阜県作業療法士会に対し、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。改めて、心より感謝申し上げます。

さて、この度の新役員体制では、新県士会長に就任させていただきました。昭和60年に発足した岐阜県作業療法士会。７代目の県士会長です。歴代の会長のお名前を拝見させていただきますと、そうそうたる方々の序列に加わったものだと感じ、身の引き締まる思いでございます。

ご存知のように、現在の我が国は超高齢社会を迎えています。膨らむばかりの社会保障費。一方で消費税率引き上げの延期により、財源確保もままならないまま平成30年の医療・介護報酬同時改定を迎えようとしています。お分かりのように同時改定では、リハビリ部門においてこれまで経験したことのないほど厳しい改定を余儀なくされる可能性を秘めています。

思えばとんでもない時期に会長に就任したものだと感じずにはいられません。しかし、ひとたび引き受けたからには、県士会発展の為、会員が心置きなく作業療法をふるまえるよう、できることはやっておきたいと思っております。ここ最近は、私が県士会に何をすべきか考えることも多くなりました。前任の柴会長の意思を引き継ぎ、地域・社会で求められる作業療法士を推し進めることはもちろん、組織力強化も課題として考えております。

前述したように、同時改定の厳しい状況を打開するにはこの1年が勝負どころです。地域・社会にとって作業療法がお役に立てる存在、必要である存在として作業療法の実践力を示していかねばなりません。作業療法士が地域・社会で貢献するには、地域・社会のニーズを捉え、それに応えていくこと。一つには活動を参加に主眼を置いた早期社会復帰に資する作業療法の実践、介護予防や認知症施策などの地域支援事業への参画です。医療・介護現場のみならず自治体と共に事業に取り組むことにより、地域・社会での作業療法の重要性・必要性の理解が深まるのではないかと考えています。

また、岐阜県内において作業療法士が活躍していくには、協会、士会の施策や情報を的確に速やかに伝達できる組織作り、また、地域ニーズを速やかに把握、情報収集できる体制が求められると思います。これを実現するには、各圏域単位のネットワークのみならず、各圏域でも小規模のネットワークが鍵になるのではないでしょうか？顔の見える隣人として、情報共有を図ることでより強固な組織となるでしょう。また、新たな人材の発掘、人材育成につながり、地域・社会のニーズも汲み取りやすく、対応力も強化されると考えております。組織力を強化し、県士会員一丸となって社会に立ち向かっていきたいです。

最後に、ジョン・F・ケネディの大統領就任演説より言葉を借ります。「国が自分に何をしてくれるかではなく、自分が国に何が出来るかを問おう」この言葉の「国」を「県士会」に置き換えてみます。「県士会が自分に何をしてくれるかではなく、自分が県士会に何が出来るかを問おう」すべての会員を支援する県士会でありたいと思いつつ、会員の主体性の元、より良い岐阜県作業療法士会を会員と共に創造できればと思っております。

新理事紹介

会 長
須貝　里幸

副会長
林　　昌吾

副会長
廣渡　洋史

監 事
柴　　貴志

監 事
川崎　加奈子

事務局長・IT事業部長・
会員情報部長
山河　陽一

社会局長・
地域リハ推進部長
君垣　義紀

学術局長・学術部長
渋谷　玲二

教育局長・
生涯教育部長
林　　節也

地方局長
廣瀬　　武

総務部長
加藤　清人

総会運営部長
中根　英喜

財務部長
木下　大輔

広報部長（会員向け）
田中　美絵

広報部長（一班向け）
小川　貴哉

事業部長
山田　貴章

機関誌編集部長
石川真太郎

現職者研修部部長
首藤　智一

地方局　岐阜地区長
廣瀬　哲司

地方局　岐阜地区長
藤井　稚也

地方局　西濃地区長
安井　一将

地方局　中濃地区長
加藤　政樹

地方局　東濃地区長
喜久本　朝矢

地方局　飛騨地区長
野尻　博文

第20回岐阜県作業療法学会を終えて…

第20回岐阜県作業療法学会　学会長
森　　義　弘（博愛会病院）

このたび、平成28年５月22日に大垣市情報工房にて第20回岐阜県作業療法学会が開催されました。学会長という大役を仰せつかり極度のプレッシャーの中、当日を迎えました。当日は30℃を越える気温と学会当日は予期せぬ大小のアクシデントにより、汗まみれでしたが、運営委員や実行委員の方々の迅速な対応にて何とか無事に乗り切れました。

今回は、20回目の記念会ということで特別講演として日本作業療法士協会の中村春基会長に御講演頂きました。なかなか厳しいお言葉も多く、自分自身が行っている業務とOT協会やさらには国が求めている内容との隔たりの多さに猛省していました。

また、午後からは市民公開講座として東京大学医学部附属病院の市橋佳代先生に御講演頂きました。近隣の中学・高校の教員の方々も参加していただき、僅かばかりですが、OTの啓蒙活動としての一役が担えたのではないかと思います。

最後に、私自身すごく貴重な経験ができたと思っています。毎回夜遅くまで一緒に熟考していただきました運営委員ならびに前日・当日に御協力いただきました実行委員の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

＊学会テーマ
地域に見出す新しいくらしとは
～それは予防医学の視点から～
＊学会参加人数
会員134名、新人44名、学生22名、一般14名
＊ポスター掲示：表彰
最優秀ポスター賞：平成医療短期大学
県士会会長賞：フェニックス総合クリニック
学会長賞：訪問看護ステーション　ハーブ

【認知症初期集中支援研修会（恵那・大垣）】

社会局　地域リハ推進部
須　貝　里　幸（大垣市民病院）

平成28年５月14日（土）恵那市、５月15日大垣市にて、認知症初期集中支援研修会が開催されました。

我が国は超高齢化をむかえ、今後認知症有病者数の増加が予測されています。厚生労働省は認知症施策として「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者に やさしい地域づくりに向けて～（新レンジプラン）」を発表しました。認知症あるいはその恐れのある人を適切に早期治療やケアにつなげる仕組みの一つとして、認知症初期支援チームによる支援がかかげられ、2018年（平成30年）に全ての自治体での支援開始が目標とされています。今回、岐阜県作業療法士会ではモデル事業から活動の実際や認知症の方に関わる行政・ 医療・福祉従事者及び作業療法士の役割について学び、連携を深めることを目的に研修会を企画致しました。

恵那文化センター（恵那市）　平成28年5月14日（土）

	県士会員	他士会OT	多職種
参加者	10名	４名	11名

大垣徳洲会病院（大垣市）　平成28年5月15日（日）

	県士会員	他士会OT	多職種
参加者	19名	４名	30名

講師には、昨年度の研修会でも講師を務めてくださった群馬医療福祉大学リハビリテーション学部准教授の山口智晴先生です。山口先生は、群馬県前橋市で先進的に認知症初期集中支援チームに携わっております。この度の研修会でも実例をふんだんに盛り込んでおり、実践内容が非常に伝わりやすい内容でした。

認知症初期集中支援チームの実施主体は自治体です。よって、この度は岐阜県にもご協力をいただき、県下42自治体への研修会案内は県庁より発信していただきました。参加者の内訳をご覧いただきますと、多職種からの参加者も非常に多く、社会での関心の高さを物語っています。

研修会では、グループワークも取り入れ、多職種連携の一助として成果も得られたのではないでしょうか。

すでに地域リハ推進部では、来年度より県内複数の自治体にて認知症初期集中支援チームへ参画させていただく機会を得ております。この度の研修会後も、とある自治体より認知症施策の一つ「認知症カフェ」での講演、当事者との座談会などへの参加要請依頼を請け賜わりました。

ますます、地域社会での作業療法士の需要が高まってきております。県内各地の作業療法士が地域支援事業へ参画できるよう、地域リハ推進部は体制整備を進めてまいりたいと思います。皆様、ご協力よろしくお願いいたします。

【第33回　各務原市健康のつどい】

社会局　事業部
山　田　貴　章（フェニックスグループ　デイサービスCom.Do DANKE）

６月12日（日）に各務原市産業文化センターで「第33回各務原市健康のつどい」が開催され、岐阜県作業療法士会の事業部と各務原市内の作業療法士を中心としたメンバーで、今年で4回目のブース参加となりました。

今年度は日本作業療法士協会設立50周年ということで各務原市の健康のつどいで記念事業の取り組みも行いました。今年度は以前の部屋より大きな部屋に変更となり、参加者も222名で昨年度と比べて大きく増えました。今回はうちわ作りや自助具と箸操作体験やモグラたたきといった活動を行いました。活動の中でもうちわ作りは昨年に引き続き好評であり多くの方に体験していただきました。作業療法士の仕事内容についても聞かれることがあり、啓蒙活動においてもいい機会となりました。この度の活動を通し、作業療法士は作業活動によって市民の健康増進や予防・人との輪を作ることで元気になれる。そういう仕事をしていることを、参加した市民の方に紹介することができました。また、開催にあたり準備や当日参加していただいたスタッフの皆様本当にありがとうございました。

【平成28年度学術部研修会(発達障害領域)】

学術局・学術研修部
渋　谷　玲　二（朝日大学歯学部附属村上記念病院）
発達障害領域担当
加　藤　千恵美（生活介護優が丘）

平成28年６月19日(日)、平成医療短期大学にて学術部研修会(発達障害領域)が行われました。参加者は7名でした。以下に報告をします。

今、発達障害の作業療法の活動場所は病院という医療の現場を越えて、福祉へそして教育の分野へと広がっています。それは、作業療法士が関わる対象児の世界が多様であることを意味しています。その多様さがゆえに作業療法士が異なる分野を知る必要があります。

今回の研修では、名古屋市で特別支援教育が始まった時から専門家チームとして学校の現場に入ってきた中部大学の伊藤玲子先生を招いて、特別支援教育と作業療法士の連携と題した研修を行いました。特別支援教育の歴史から、学校という組織、その中で作業療法士がどのように関わることができるのか、という幅広くかつ具体的なお話を聞くことができました。

一番心に残っているのは、「子どもの作業と教員の作業、どちらの作業も成功させるように支援すること」という言葉です。私たち作業療法士は、どうしても個人を評価し個人を治療するというやり方でいます。でも、学校の子どもは集団の中で生活しています。その文化に適応するための方法を提示しなければ意味のある作業療法を行うことはできません。

時間を越えてのお話と会場からの話で盛況だった半日でした。

私のまちの お店紹介

今月号も岐阜県内にある福祉に関するお店や活動を紹介するページを設けていきます。今回は車椅子の方でも利用できるバリアフリーが整った、おしゃれな空間で食事が楽しめるお店を紹介します。

第６回 Nouveau Café（ヌーヴォーカフェ）

今回は大垣市にあるNouveau　Café（ヌーヴォーカフェ）を紹介します。こちらのお店は、食事系からケーキ・スイーツまで味にこだわり、定番メニュー以外にも日替わりメニューや季節限定メニューなど、常に新しいメニューを生み出しているそうです。店内は、中央の大きなテーブルが目を惹く開放的な空間で、ガーデニングが施された中庭が眺められます。車通りもさほど多くなく、日常を忘れてゆったりとくつろげるのも魅力的で、車いすの方にも配慮したバリアフリー設計と広々とした各席があります。

豊富なメニュー

モーニング、ランチ、スイーツ、ドリンクメニューのそれぞれ豊富なメニューも魅力的です。その中でも特にスイーツメニューの多さが特徴です。

ランチ

Aランチ　おすすめプレートランチ　¥850

- 和風きのこソースハンバーグ
- ライス
- 自家製タルタルソースのエビフライ
- 副菜（ひじきの煮物、サケの塩焼き）
- スパゲティーサラダ　・サラダ　・スープ

Aランチも含め、6種類のランチメニューがあります。　※ランチメニューは週替わりで変更するため一例です。

スイーツ

ヌーヴォーキューブ　¥600（単品）

看板スイーツ★
身体に優しく、美容健康に良い黒ごま・きなこ・豆乳を使用したふんわり＆しっとりのオリジナルシフォンケーキです。

店内のバリアフリー

①車椅子の方も使えるトイレ

②玄関スロープ

③段差の店内

店舗名　**Nouveau Café**
（ヌーヴォーカフェ）

所在地　〒503-0835
岐阜県大垣市東前2-69-1

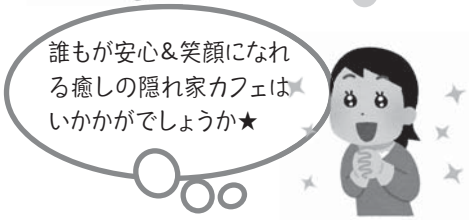
電話番号　0584-78-8838

営業時間　7：30～18：00
※オーダーストップ17：15

定休日　毎週火曜日，第１月・火連休

駐車場　17台

車椅子の方のみでなく、
ベビーカーを押すお客様に
よく喜ばれるそうです！



第２回
突撃となりの作業療法士

平成医療短期大学
加藤清人先生からの紹介

私にとってのOTとは

坪　内　貴　志

平成18年　豊田学園医療福祉専門学校
（現・岐阜保健短期大学）卒業
作業療法士免許取得
平成18年　医療法人清光会　巣南リハビリセンター
通所リハビリテーション配属
平成27年　同法人　巣南デイサービスセンター配属
平成28年　同法人　新デイサービス『歩けるデイ巣南』
『脳活性化デイ巣南』配属
瑞穂市総合事業『あたま健康道場』
企画運営

入職後、早10年以上が経過しました。初めの数年は、「ＯＴとは」なんて考える余裕もないまま、職場の歯車として、先輩と同じことを繰り返す毎日でした。しかし、身体機能の回復を目指しても、なかなか結果の出ない現実に「これはご本人のためになっているのか？ＯＴの役割とは？」などと疑問を感じることが増えました。その後、様々な事例を通じて「ＯＴはご本人にとって、一番、嬉しいことを支援すればいいのだ」とシンプルに考えるようになりました。そして、現在は『ＭＴＤＬＰ』の普及により、ＯＴのすべきことが明確になったと感じております。皆様は、如何でしょうか？

今年度より私は、法人内の新事業である機能特化型ＤＳと、総合事業（市委託）の企画運営を行っております。まだまだ、毎日、反省すべきことばかりではありますが、今後も、その方にとって「一番、嬉しいこと」を実現するための支援を行っていきたいと思っております。

第21回岐阜県作業療法学会・一般演題募集のお知らせ

■開催日・場所
平成 29 年 5 月 14 日（日）　於：セラトピア土岐
■演題登録期間
平成 28 年 7 月 1 日（金）～平成 28 年 12 月 15 日（木）
■発表形式
口述発表（発表時間は 7 分、質疑応答は 3 分予定）

第 21 回岐阜県作業療法学会学会長
土岐市立総合病院
渡　辺　紀　子

登録方法

E-mail にて『第 21 回岐阜県作業療法学会　演題登録』とし、下記①～⑦を記入して下さい。

①氏名（フリガナ）　②所属施設　③協会会員番号　④演題名
⑤領域（身障／老年期／発達／精神／地域／その他）　⑥E-mail アドレス
⑦電話番号

※演題登録された方には後日、抄録作成のご案内をさせて頂きます。
※採否につきましては演題募集締め切り後、査読委員会にて協議し、メールで連絡致します。
※抄録、発表内容は倫理的事項を遵守し、個人情報に十分配慮して頂きますようにお願い致します。

応募先：E-mail　gatkai@gifu-ot.com

平成28年６月30日現在　岐阜県作業療法士会会員数476名

岐阜県作業療法士会ニュース

「ごったに」編集：岐阜県作業療法士会（広報部）

岐阜中央病院　リハビリテーション療法課　作業療法室
〒501-1198　岐阜市川部 3 丁目 25 番地
TEL. 058-239-8111　FAX. 058-239-8216

岩砂病院・岩砂マタニティ　リハビリテーション科　作業療法室
〒502-0812　岐阜市八代 1-7-1
TEL. 058-231-2631　FAX. 058-294-1480

【編集後記】

夏が近くなり暑い日が多くなってきました。今年は残暑が厳しいとも天気予報が伝えています。持久力が必要な季節と感じています。自分の年齢と相談しながら、楽しく夏を過ごしたいと思います。みなさまも良き思い出をつくってください。